Role Model 21

見方を変えれば、女性だからこそできる生き方がたくさん！

磯田節子 熊本高等専門学校建築社会デザイン工学科教授

熊大工学部で“紅一点”

昭和45年に熊本大学工学部建築学科に入学したのですが、その年の工学部に入学した女子は私ひとりで、「紅一点の工学部女子学生」として新聞記事にもとりあげられた時代（笑）。学生時代のほとんどを男子学生と行動を共にし、製図の締め切り直前は大学で徹夜するなど、周りの男子と同じように過ごしていました。

建築分野に進むことを決めたのは「実際の現場で仕事ができる」と思ったから。しかし当時、大手ゼネコンなどでは女性の採用がまったくない時代だったため、そのまま大学院へ進学（熊大工学部大学院進学の女性は、これまた私が初とのこと！）。修士1年の夏休みにカリフォルニア大学バークレー校のサマーセミナーに参加し、海外の研究活動に刺激を受け、留学を決意するも受験に失敗。再度受験準備をしつつ、地元のシンクタンクに就職しました。その後、見合いで想定外の結婚をすることになり夫の職場が東京だったので、仕事を辞めて上京。しばらくは専業主婦として家事と子育てに専念しました。その後、夫の転勤で熊本に戻ることになり、大学院博士課程に入学することを決めたのです。

女性だからこそできる多様な生き方

研究しているテーマは「都市計画・都市デザイン・まちづくり・歴史的な町並みや建築の保存」です。**「身近にある普段の“まち”が豊かであることが“大事”」**と考えます。このためにはやるべきことが無限にあるのですが、そこがこの仕事の魅力でもあり、やり甲斐となっています。

私の場合は“建築や都市”という**生涯学び続けたい分野との出会い**があり、これは幸せなことだったと思います。そのような“何か”を見つけることが大事かもしれません。女性が仕事をし続けるには、まだ制約が多い世の中ですが、別の見方をすれば多様な選択肢があり、自由でしなやかな生き方ができるのは女性の特権かもしれません。ぜひ女子学生のみなさんも多くの人々との出会いや多様なことに挑戦して、視野と自分の可能性を広げてみてください！

クラス担任をした3C（土木建築工学科）の学生たちと（2007年）

在外研究でデンマークオールボー大学へ。アーバンデザインワークショップの最終日、研究室の仲間たちと（2012年）

Setsuko ISODA

高専教員 » 建築設計事務所設立 » コンサルタント » 博士課程 » （結婚）専業主婦 » 研究所 » 修士課程 » 工学部建築学科

この間 子育てに専念 そして 博士課程へ 社会人入学

One day

6:30	起床
8:30	高専着
8:50	授業（建築設計演習）
13:30	委員会
15:00	小川町調査
17:30	ゼミ
20:30	研究や授業準備等
24:30	帰宅
26:00	就寝

◎リフレッシュ方法・落ち着く場所
気分転換は料理（ミッドナイトクッキング）
落ち着く場所はやはり、研究室か・・

profile

いそだせつこ／熊本大学工学部建築学科卒業。同大学院建築学専攻修了。（財）熊本開発研究センターに就職。結婚後は夫の仕事で転勤生活となる。1989年に熊本市へ。1990年に熊本大学大学院自然科学研究科博士課程に社会人入学。1994年博士（学術）取得。1995年から（株）人間都市研究所研究員。1998年一級建築士事務所もやいデザイン工房設立。2001年から八代工業高等専門学校（現熊本高等専門学校）土木建築工学科助教授、2008年同教授。一級建築士。

アンケートより

Q.子育てと仕事を両立させるポイントは？

●夫が協力的であること　●大学が裁量労働制という点（他より子育てしやすい環境だと思う）　●本人の意志次第
●いい保育園を見つけること　●周囲の理解と協力（家族、同僚、親、保育サポーターも心強い）